令和4年度「土砂災害防止に関する絵画･作文」作文小学生の部 優秀賞（事務次官賞）

「　自分の命は自分で守る　」

山形県　山形大学附属小学校　４年　佐藤（さとう）　綾芽（あやめ）

６月に、お母さんと私と妹で、県立図書館の「親子砂防教室」に参加しました。参加する前は、「砂防」の意味が分からず、あまり興味もありませんでした。でも、土砂災害の模型実験があるようだったので、行ってみてもいいかなと思い、参加しました。

そこで、先生をしてくれた県庁のお兄さんたちに、土砂災害は主に三つあるということを教えてもらいました。その三つとは、「土石流」、「地すべり」、「がけ崩れ」です。それらの土砂災害がどうやって起こるのか、そして、被害を防ぐためにどんな工夫をしているのか、模型を使って説明してもらいました。

土石流の実験では、砂防えんていがないときは、土砂が家の方までガラガラと勢いよく落ちてきて、家や車が巻き込まれて倒れたり、ふっ飛ばされたりしました。砂防えんていを設置したときは、土砂が砂防えんていにせきとめられて、家や車は無事でした。砂防えんていがないと、家や車だけではなく、人も流されてしまうでしょう。これが模型ではなく実際の災害だったらと思うと、とても怖いなと思いました。

イベントの終わりに、館内のレストランで、「法枠工ワッフル」というお菓子を特別に売っていると聞いて、食べに行きました。「法枠工」というのは、コンクリートの四角形の枠を設置して、がけ崩れを防ぐものです。その時食べた「法枠工ワッフル」は、とてもおいしかったのですが、ワッフルは普通のものでも、法枠工の形をしているなと思いました。今後、ワッフルを食べるたびに「法枠工」を思い出しそうです。

先週、家族と一緒に、米沢の新しい高速道路を通った時、私は、法枠工を見つけました。法枠工は、四角の枠がコンクリートで、内側には地面が見えていました。私は、どうして全部コンクリートにしないのか不思議に思いお父さんに聞いてみました。お父さんは、「真ん中が開いているのは、土の水分を抜いて、コンクリートにかかる圧力を減らすためだよ。それに、全部コンクリートだったら、コンクリートや鉄筋をたくさん使うから、すごくお金がかかるんじゃないかな。」と教えてくれました。みんなの命や街を守るために、よく考えて作られているんだなと改めて思いました。砂防えんていも、どんな場所に設置してあるのか、どのくらいの大きさなのか、私は、実際に見に行ってみたいと思いました。

今回、砂防教室に参加し、ひとつ思い出したことがあります。それは、私のおじいさんとおばあさんのことです。私のおじいさんとおばあさんは、土砂災害警戒区域ではないのですが、山の少し近くに住んでいます。おじいさんとおばあさんは、大雨が降って警報が出たときなど、避難指示が出る前に、安全な場所に自主的に避難します。それを見て、私は「気が早いな。」と笑っていました。ですが砂防教室で、自分の命は自分で守らなくてはならないということを聞いて、おじいさん、おばあさんのように、自分も、命を人まかせにせず、早めに避難して被害にあわないようにしたいと思いました。

「砂防」とは、山地、海岸などで、土砂の崩れや移動を防ぐことをいうそうです。なんと、英語でも「ＳＡＢＯ」というそうです。

災害はいつ起こるかわかりません。自分や家族の命を守るために、日ごろの備えと、早めの避難を心掛けたいと思います。